

【授業科目】 看護管理・看護マネジメント論 Nursing Administration and Service Management

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
豊田 妙子	4年次前期	必修	2	30	講義	あり	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対するフィードバック方法	<p>授業概要／質の高い医療・看護を提供するために必要な基礎的知識について教授する。具体的には、組織とはにか、組織を効果的に機能させるためのシステム、マネジメントに必要な理論、看護の質保証についてである。看護専門職としてのキャリア開発についても講義を行い、自らのキャリア開発について検討する。</p> <p>課題に対するフィードバック方法／提出されたレポートにコメントをつけて返却する。または、授業内で全体に解説・資料の提示を行う。</p>							
実務経験に関する授業内容	<p>看護管理の実務経験を有する教員が、看護職として必要な看護管理の基本的知識・技術を 経験を踏まえたうえでグループでの事例検討を取り入れて教授する</p>							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー①「看護の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき看護を実践できる」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>①看護管理・組織および組織構成員としての役割について説明することができる。 ②外部環境・内部環境による組織への影響について具体的に述べることができる。 ③看護の質保証および質を評価するための方法について説明することができる。 ④看護管理に必要な理論や関連する法律について説明することができる。 ⑤看護専門職としてのキャリア開発を学び、自身の将来について述べるることができる。</p>							
時間外学習に必要な内容および学習上の助言	<p>事前学習：第1回～第15回 教科書の該当部分および関連する書籍・文献を読み、疑問点を整理しておく。事前課題が提示された場合は、指示に従う。(各2時間)</p> <p>事後学習：第1回～第15回 教科書・文献を用いて学びを整理する。疑問点などは十分に調べたうえで教員へ質問し、解決しておく。事後課題が提示された場合は、指示に従う。(各2時間)</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指示に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 社会の変化と看護職の役割 第2回 病院の成り立ち、看護管理・看護マネジメント 第3回 組織、組織構造・機能 第4回 協働のために必要な知識と技術 リーダーシップ、フォロワーシップ、コミュニケーション 第5回 看護管理の実際①：急性期病院における看護管理 第6回 看護管理の実際②：地域包括ケア・在宅医療における看護管理 第7回 医療チームにおける看護職の役割①グループワーク 第8回 医療チームにおける看護職の役割②グループワーク 第9回 医療チームにおける看護職の役割③グループワーク・発表 第10回 地域との協働に必要な知識と技術、看護の質保証 第11回 看護サービスのマネジメント①：看護提供システム 第12回 看護サービスのマネジメント②：施設・環境、物品、情報、人材 第13回 看護ケアのマネジメント：多職種連携、多重課題、業務計画 第14回 看護職のキャリアマネジメント：キャリア形成、労働環境、セルフマネジメント 第15回 看護を取り巻く現状と制度</p>						<p>全て 豊田</p>	
評価方法 評価基準	<p>定期試験 70%、レポート・グループワーク 30%</p>							
教科書	<p>吉田千文ら編「ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理 第5版」メディカ出版(電子版)</p>				<p>参考書等</p>		<p>授業の中で適宜紹介します。</p>	
学生への助言等	<p>質の高い看護を提供するためには、組織・チームが機能する必要があります。組織・チームを機能させるためには管理の知識・技術を駆使する必要があります。看護管理者だけが看護管理を実践するのではなく、看護専門職者として成長し、人々の健康に関わるために必要なことを認識してほしい。積極的な授業への参加を望みます。</p>							